

水害編 第2章

【避難行動】

水害は起こる前に、
とにかく逃げる



- 1 状況確認・避難判断 p.117
- 2 安全な場所への避難 p.121

① 状況確認・避難判断

水害発生タイムライン

避難勧告発令が避難開始の基準

お年寄りなど避難に時間や助けが必要な人は、避難勧告の一段階手前の避難準備・高齢者等避難開始が発令された時点で避難を開始してください。

淀川氾濫は上流部での雨の降り方に注意

上流部での降雨が淀川の流量に大きく影響するため、住んでいる地域だけでなく、上流部での今日、明日の雨の状況についても注意を払いましょう。

内水氾濫では避難勧告が出されないことも


内水氾濫では、早ければ猛烈な雨が降り出してからほんの10分程度で道路側溝やマンホールから水があふれ出します。空が雷とともに真っ黒な雲に覆われたら要注意です。

高潮は数日前からの台風情報に注意

高潮は大型台風(スーパー台風)が大阪湾に接近、上陸したあとに発生します。大型台風が発生する予報が出されたときは、その進路に気を配りましょう。

津波避難は地震発生後すみやかに

南海トラフ巨大地震による津波が発生した場合には、地震発生後すぐに太平洋沿岸地域に大津波警報が発令され、その後大阪湾沿岸地域にも大津波警報が発令されます。大きな横ゆれを感じたら、情報に注意して、避難指示(緊急)の発令を待たずに素早い避難を心がけましょう。

現象	淀川氾濫	内水氾濫	高潮	津波
原因	集中豪雨	局地的大雨	スーパー台風	海溝型地震
5日前			台風発生 台風5日後 進路予報	
3日前			台風72時間後 進路予報	
1日前			台風24時間後 進路・規模予報	
半日前	 継続降雨(日量360ミリ) 淀川氾濫危険水位 (レベル4) 避難勧告発令	大雨警報(浸水害) 洪水警報 発表 強い積乱雲発生	高潮(特別)警報 避難勧告 発令	地震発生 大津波警報 避難指示(緊急) 発令
2時間前		継続降雨 ゲリラ豪雨発生		
60~10分前				
災害発生	越流・破堤	道路冠水	越流・破堤	津波到達
±0時	淀川氾濫危険水位 (レベル5) 避難指示(緊急) 発令		避難指示(緊急) 発令	地下への流入
30分後		地下への流入		
1時間後	地下への流入			
2時間後			地下への流入	
5時間後	想定区域全域浸水			

※気象の状況によって地下への流入が早まる場合があります。

① 状況確認・避難判断

市が発令する避難情報

避難情報は3段階

大阪市から発令される避難情報には、以下のものがあります。

避難準備・高齢者等避難開始

避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合

- ◆避難に時間を要する人(お年寄り、障がいのある人、乳幼児など)とその支援者は避難場所に避難しましょう。
- ◆その他の人は、避難の準備を整えましょう。



避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合

- ◆すみやかに避難場所に避難しましょう。
- ◆外出することでかえって命の危険がおよぶような状況では、近くの安全な建物への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。



避難指示(緊急)

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合

- ◆まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。
- ◆外出することでかえって命に危険がおよぶような状況では、近くの安全な建物への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

避難情報の発令基準

避難情報は、水害の種類ごとに下記の基準に基づいています。

	淀川氾濫	高潮	津波
避難準備・高齢者等避難開始	枚方水位観測所 水位5.40m	高潮注意報発表	—
避難勧告	枚方水位観測所 水位5.50m	高潮注意報または 高潮警報発表	—
避難指示(緊急)	枚方水位観測所 水位8.30m	高潮警報または 高潮特別警報発表	津波警報または 大津波警報発表

避難情報はサイレンでも

避難情報は防災スピーカーからサイレン(警告音)として流されます。

	サイレン(警報音)パターン
津波警報	5秒 6秒 5秒 6秒 5秒 6秒 5秒
大津波警報	3秒 2秒 3秒 2秒 以降、同様に繰り返し...
避難勧告	10秒 10秒 10秒 10秒
避難指示	15秒 10秒 15秒

大阪市危機管理室のホームページで実際のサイレンパターンを聞くことができます(wav形式)。



② 安全な場所への避難

水害からの避難は垂直避難と水平避難

広範囲が浸水する場合、浸水想定区域外への水平避難は簡単ではありません。お年寄りや身体に障がいのある人は特に大変です。

垂直避難～ビルの3階以上に

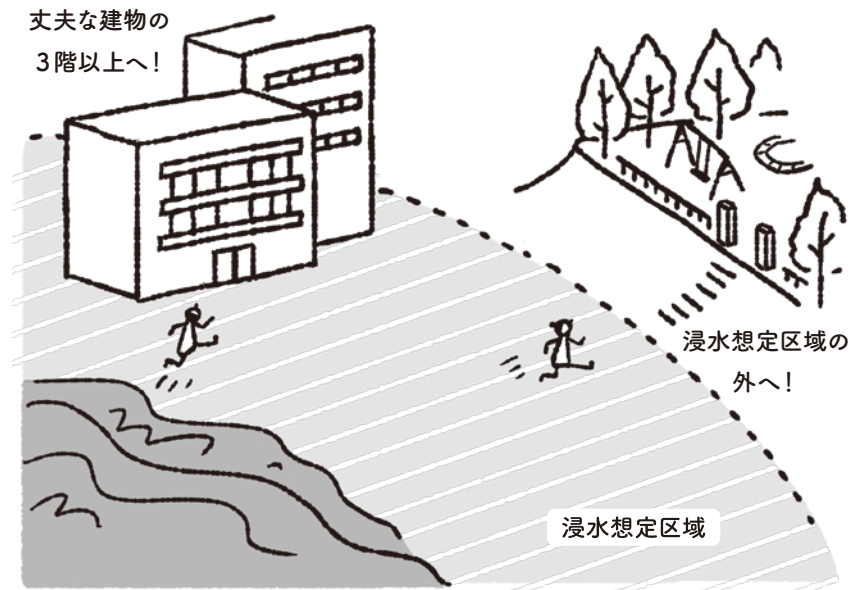
津波避難ビルに指定されている災害時避難所の浸水しない階か、その他の津波避難ビルや付近の丈夫なビル、住んでいるマンションの3階以上に避難しましょう。



水平避難～浸水想定区域の外へ



治療や介護、その他命にかかわるようなサービスが日常的に必要な人は、早めに浸水想定区域外へ移動しましょう。被害を受けた地域では、さまざまなサービスが大きく低下します。



最寄りの津波避難ビルを確認する (地域別防災マップ) pp.159-176
 水害時の浸水想定区域を確認する pp.180-182
 水害時に避難できる避難場所を確認する pp.183-186



水害時の避難先を決めておく pp.227-228

② 安全な場所への避難

安全に避難するために

水害からの避難は、早め早めが安全です。屋外に避難するとき、雨が降っていたり、浸水が始まっていたりすると避難行動自体が危険となります。

動きやすく安全な格好で避難

レインコートなどを着て両手が使えらるるようにしましょう。リュックサックの利用も有効です。



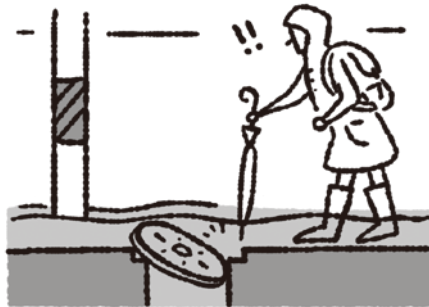
浸水深さに注意

浸水深さがひざより上の場合は、屋外を移動せずたどり着ける場所に避難しましょう。津波の場合は、すねぐらの深さでも危険です。



足元に注意

濁水の下に凹凸につまずいて転倒したり、側溝やふたのずれたマンホールに落ちないように、傘、ウォーキングポールなど長い棒で足先を探りながら進みます。



1人で行動しない

流水の中で転ぶと立ち上がれなくなる可能性があります。助け合いができるように1人で行動することは避けましょう。子どもやお年寄りなどへの気配りも忘れないようにしましょう。



避難に自動車は使わない

多くの方が同時に避難するため、交通渋滞が発生します。



ハイブリッド車に注意

冠水したハイブリッド車や電気自動車に触れると感電することがあります。

電気室の浸水で建物機能がマヒ

浸水想定区域内の建物では、止水板や土のう・吸水土のうを設置して電気室の防水対策を行いましょ。

